

チャバネフユエダシャク

春に広葉樹の若葉を食べるシャクトリムシ（幼虫）。最大長約40mm.

ナミスジフユナミシャクに混じって広葉樹林で多発することがある。



1. 中齢幼虫，体長10mm. 1992/5/28.

新得町，シラカンバ.



2. 老齢幼虫，体長30mm, 1992/6/8.

1の幼虫を飼育.



3. 雌成虫，体長15mm. 1の幼虫を飼育.

【学名】 *Erannis golda*

【分類】 チョウ目 (Lepidoptera) , シャクガ科 (Geometridae) , エダシャク亜科 (Ennominae)

【分布】 北海道，本州，四国，九州，沖縄；シベリア南東部.

【特徴】

幼虫は終齢で体長30~40mm. 体は背面が茶色で，側面が黄色，腹面は中齢では茶色だが終齢では黄白色.

体の側面が後胸から第6腹節の間で黄色の点で容易に識別できる.

【生態】

宿主：ヤナギ科，カバノキ科，ブナ科など.

年1化. 幹上で卵で越冬する. 幼虫は早春に孵化し，新芽や若葉を食べて成長する. 6月頃に地上に降りて，落葉中や土の浅いところで繭を作って蛹になる.

蛹は10月頃に成虫になる。雌成虫は翅（はね）がなく、幹を歩いて登る。

【被害と防除】

ナミスジフユナミシャクと混在して約10年間隔で大発生する。ナミスジフユナミシャクより成長に時間がかかるので、食害に気づく頃にはチャバネフユエダシャクの幼虫の方が多く目につく。大発生は従来1～4年で終わっている。

ウダイカンバは食害により枯れたり枝枯れを起こす。食害後にキクイムシの二次被害により枯れることもある。

簡易な防除方法は確立されていない。9月頃に幹に粘着剤を塗って雌成虫を駆除する方法がある。

ウダイカンバについては被害発生直後の夏に葉の回復状況を観察する。葉のない枝が多数みられるような木は秋から冬の間収穫した方がよい。

【文献】

1987. 杉敏郎, 編. 日本産蛾類生態図鑑. 453 pp. 講談社, 東京.

*1995. 原秀穂, 東浦康友, 洞平勝男, 高橋儀昭. 森林保護 道北地方の広葉樹林で大発生しているシャクガ類について. 森林保護, 250: 41-43. (ウダイカンバ被害)

*1997. 原秀穂, 東浦康友, 洞平勝男, 高橋儀昭. ナミスジフユナミシャクの食葉被害によるウダイカンバの枝枯れ・枯損. 森林保護, 257: 7-8.

*1997. 伊藤賢介, 福山研二, 東浦康友, 原秀穂. 1996年に北海道で発生した森林昆虫. 北方林業, 49: 224-227. (ウダイカンバ枯損記録)

*の文献は北海道立林業試験場ホームページの「北海道立林業試験場・研究成果文献データベース」で見ることができます。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

チャバネフユエダシャク shakuga/chabane/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1995/6/2.

1yochu1.jpg, 1yochu2.jpg, 1seichu.jpg

「写真1～3」 原秀穂, 北海道立林業試験場, 1992.